

**「大規模買付行為等への対応方針に基づく対抗措置発動に関する
当社定時株主総会における株主意思確認の議案上程について
のお知らせ」に関する補足資料**

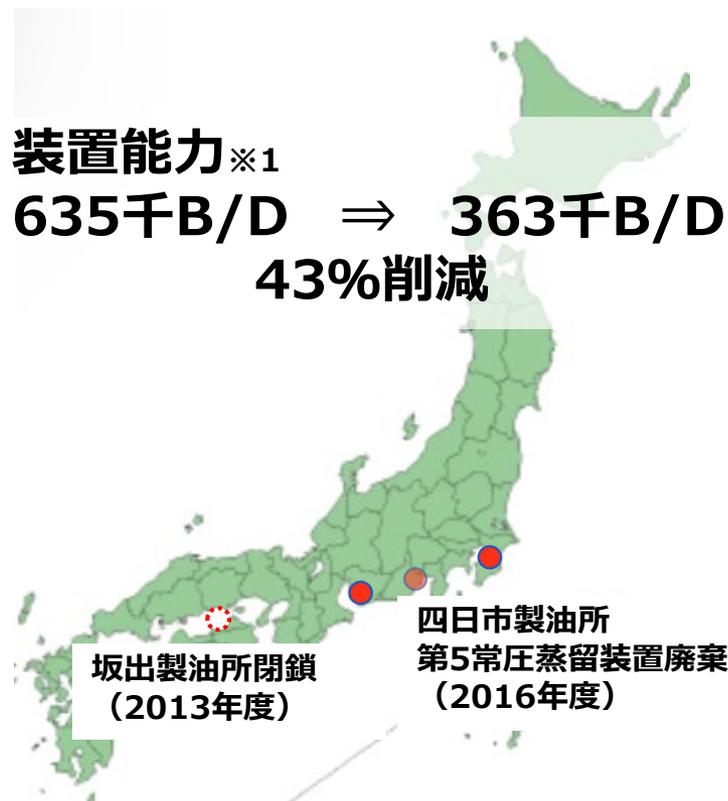
2023年5月23日

**コスモエネルギーホールディングス株式会社
(証券コード：5021 東証プライム)**

石油事業の収益力

ショートポジション戦略

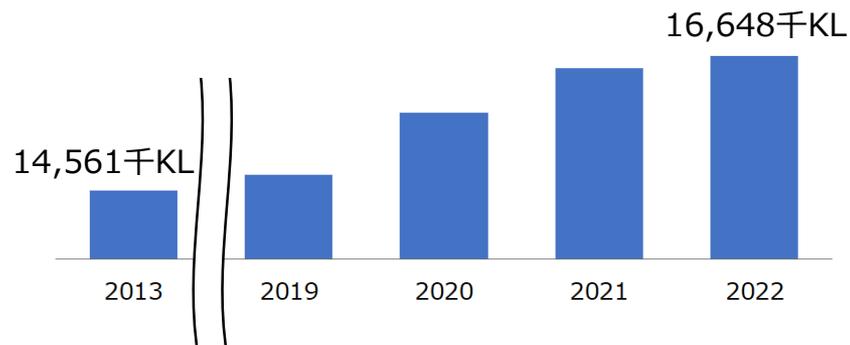
- ◆ 戦略的に石油精製能力を大きく削減してきたことに加え、販売数量を拡大。
- ◆ 今後の内需減を考慮しても、当面の間は、石油精製装置の高稼働継続を想定。



※1 2013年4月と2023年4月の常圧蒸留装置能力を比較。昭和四日市石油への精製委託を除く

販売数量※2
14,561千KL ⇒ 16,648千KL
14%増加

< 4品販売数量推移 >

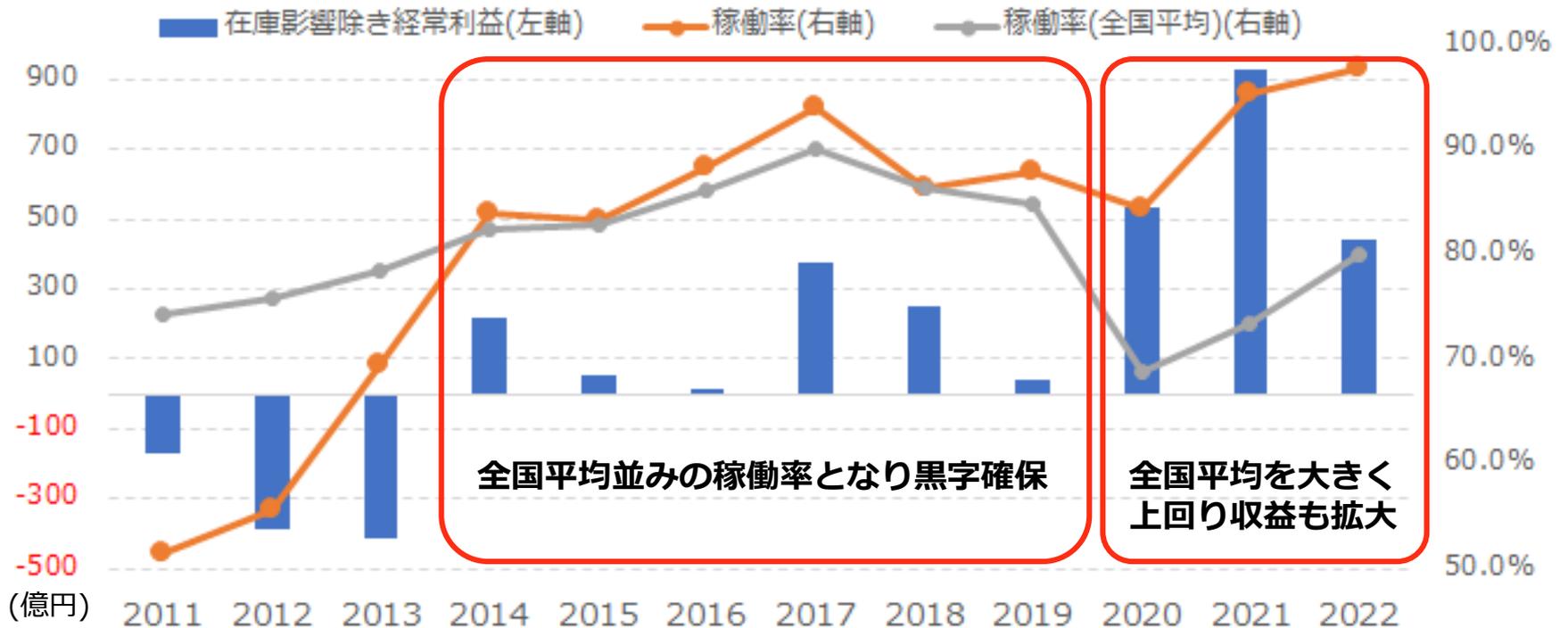


※2 2013年度と2022年度のガソリン・灯油・軽油・A重油4品国内販売数量を比較

高稼働の実現と高い収益力

- ◆ 操業マネジメントシステムの導入等により、安全操業レベルが向上した為、全国平均を大きく上回る高稼働を継続。
- ◆ 3つの製油所を一体運用することで、高硫黄重油の生産をゼロ化、付加価値の高いガソリンを増産。高い競争力を実現。

<石油事業利益および稼働率推移>



再生可能エネルギー事業の成長

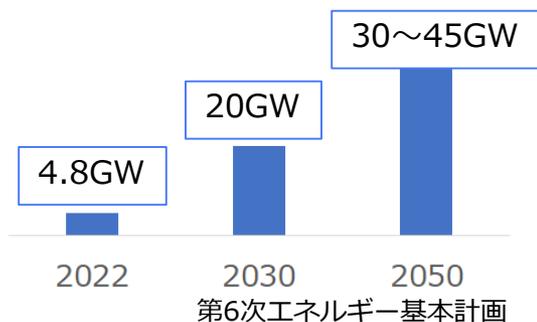
再生可能エネルギー事業の収益機会

- ◆ 発電のみならず、**需給調整・蓄電、グリーン電力販売**にも**収益機会**が存在。
- ◆ 当社は既にグループ内に複数の**ビジネスや顧客基盤を保有**。サプライチェーン全体でシナジー創出を図る。

発電

第6次エネルギー基本計画において、洋上風力発電は大幅に拡大

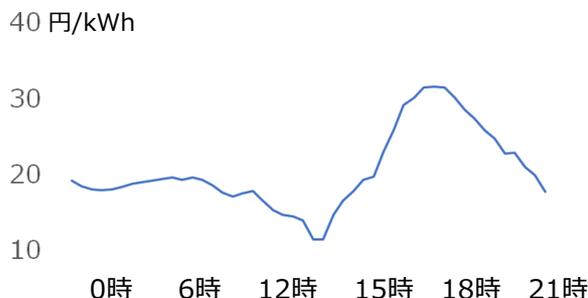
<風力発電設備容量推移>



需給調整・蓄電

電力市場は大きく変動。ボラティリティを活用した収益機会が存在

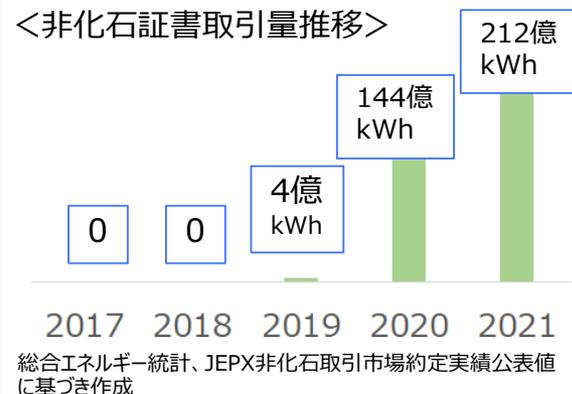
<電力市場時間帯別取引価格イメージ>



グリーン電力販売

RE100企業の増加などにより、非化石証書の取引は拡大

<非化石証書取引量推移>



ビジネス・顧客基盤を有する主なグループ会社



コスモエコパワー株式会社



コスモエネルギーソリューションズ株式会社



コスモ石油マーケティング株式会社

再生可能エネルギー事業子会社 分離・独立のデメリット

- ◆ 再生可能エネルギー事業子会社（コスモエコパワー株式会社）の分離・独立は様々な**デメリット**が存在。

主な分離・独立のデメリット

① 人材引上げによる**ナレッジの欠落、プロジェクト遂行の遅れ**

<役員・従業員の出向状況>

| | 役員 | 従業員 |
|---------------------|----|-----|
| コスモエコパワー株式会社 社員数 | 8 | 287 |
| うち当社グループ 出向者 | 5※ | 43 |

※一部転籍者含む

② 当社グループの**格付・資金調達力**を利用できない

<当社の格付情報>

| 格付機関 | 長期格付 | 短期格付 |
|------|----------------|------|
| R&I | A- (見通し安定的) | a-1 |
| JCR | A- (見通し安定的) | J-1 |

③ 様々な**信用力の低下**

(プロジェクトコンソーシアム、行政・漁協・地元住民)

④ 分離・独立に伴う**労務負荷**

- ・ 新規プロジェクトの**失注**
- ・ **開発遅延**
- ・ **収益性の低下**の恐れあり

資本政策の実現

資本政策の実現

- ◆ 株主還元・財務健全性・資本効率を三位一体で拡大していく資本政策を公表。
- ◆ 必要な自己資本の明確なレベルを提示。
- ◆ 自己資本・ネットD/Eレシオが目標値を達成した場合、追加で株主還元を実施。

<資本政策>

- 総還元性向 **60%以上**※
- 配当 **200円/株以上**

※財務健全性目標達成時に追加還元実施

株主還元

企業価値

財務健全性

資本効率

ROE 10%以上

ネットD/Eレシオ1.0倍
(自己資本 6,000億円以上)

<リスクからの必要自己資本試算>

